

総合講義「教職実践研究Ⅰ」の実践

～2年目の取組～

下 野 浩 二〔鹿児島大学教育学部附属教育実践総合センター〕

Actual Performance for "Research into Teaching Practice I"

—Challenges for the Second Year—

SHIMONO Koji

キーワード：実践的教職科目、教職実践研究Ⅰ、19の資質能力、自己改善、模擬授業

1 はじめに

本学において平成19年度から取り組んでいる特別教育研究経費事業「県教育委員会との連携による新しい教員養成カリキュラムの開発」もいよいよ本年度で最終年度を迎える。社会の期待やニーズに応える教員養成を行うという使命を果たすことを意図し、実践的指導力を備えた教員養成のためのカリキュラムづくりとその実践が目的の一つである。

実践の中核を担う「実践的教職科目」群の一つが総合講義「教職実践研究Ⅰ」である。一昨年度末に授業の内容を作成し、昨年度から実践を行ってきた。2年目を迎えた本年度は、教員として最低限必要であると本学部で設定した19の資質能力との関連を図り、再度目標や内容を一部修正して実践に臨んできた。本稿では、2年目の実践の様子とその成果や課題について報告するものである。

2 昨年度の実践と本年度の改善点

(1) 昨年度の実践の概要

《学修目標》

- a 自分の課題を明らかにしながらその解決に積極的に取り組むことができる。
- b 学習指導に関する基礎的・基本的な事項を身につけ、学習指導案を作成することができる。
- c 学習指導力育成に生きる授業観察や授業研究を行うことができる。

《授業の概要》

第1ステージ

第1回から第7回にかけて、学習指導に関する

基礎的・基本的事項の理解を目的とした授業を実施した。主な内容は以下の通りである。

- 第1回 オリエンテーションと本科目で解決する課題について
- 第2回 学習指導案とは
- 第3回 学習指導案の読み取り
- 第4回 授業の進め方、指導法の工夫
- 第5回 きめ細かな指導、発問の在り方
- 第6回 学習評価、機器の活用等
- 第7回 生きる力を育む学習指導、授業観察の視点等

第2ステージ

第1ステージでの学びを生かして、学校現場での授業参観を2回実施（うち1回は作成途中の学習指導案をもって現場の教員の授業と比較することを目的としたもの）することを中心に授業を展開した。

- 第8回 公開授業参観等の計画
- 第9回 附属学校での公開研究授業の参観及び分科会への参加
- 第10回 公開研究会のまとめと各教科に分かれての指導
- 第11回 模擬授業用学習指導案作成
- 第12回 11回で作成した指導案を持参しての附属学校での授業参観（模擬授業単位と同じ単元の授業）

第3ステージ

各教科に分かれて、学習指導案の練り直しや模擬授業の準備の後、模擬授業を実施した。

- 第13回 模擬授業及び授業研究実施①
- 第14回 模擬授業及び授業研究実施②

第15回 総括講義（特別支援教育に関するミニ講義を含む）

(2) 本年度改善の方向

昨年度は、1年次ということもあり、多くの課題が残された。また、この間、「教育実践演習」の課程認定に向けて、学部で卒業までに育てるべき19の資質能力（表1）が生み出されるなど実践的教職科目である本科目を見直す必要性もでてきた。これらのことを踏まえ、以下の2つの観点からの見直しを図り、2年目の実践に取り組むことにした。

① 学修目標の見直し

本学部で卒業までに育てたいと考えている19の資質能力は以下のようなものである。

カテゴリー	具体的な項目
A教職の理解	1 教職の意義
	2 教育の理念、制度、歴史
	3 教育方法に関する理解
	4 学校経営及びその課題
B連携、協働 力、自己改 善力育成	5 協働実践力
	6 保護者、地域との連携力
	7 コミュニケーション力
	8 自己改善力
C学習者理解	9 学習者（心理、発達）理解
	10 カウンセリング技法
	11 特別支援教育の理解
D構想力、展 開力、評価 力等の育成	12 学級経営の構想力
	13 生徒指導の構想力
	14 題材分析、授業デザイン力
	15 授業展開（評価）力
	16 情報（収集、分析、活用）力
E教科領域等 の内容理解	17 教科カリキュラム理解
	18 教科内容理解
	19 道徳、特活、総合学習の理解

表1 学部で育成する資質能力

本科目が内容面でねらっている「学習指導に関する実践的力」という側面や実践的な科目として重視したい「自己改善」という側面、2年前期開設という时期的な面等を考慮して、この19の資質能力のどれを重点的に育てるべきかと考え、選んだ観点が以下の5つである。

- Aの3 教育方法に関する理解
- Bの8 自己改善力
- Dの14 題材分析、授業デザイン力

○ Dの15 教科授業展開評価力

○ Eの17 カリキュラム理解

これらの5つの観点から設定した目標が以下の3つである。

《学修目標》

(1) 「学習指導」に関する力量形成を目指して、自分の課題を明らかにしながら、意欲的に授業参観をしたり、指導案作成を行ったりし、その解決に進んで取り組むことができる。（Bの8「自己改善力」の観点）

(2) 児童生徒に学力向上を図る授業を目指して、授業前、授業中、授業後の各段階における基礎的・基本的な事項（教育課程や指導法の理解等）を身につけるとともに、1時間の授業を構想し、学習指導案を作成することができる。（Aの3やDの14「授業デザイン力」、Eの17の観点）

(3) 学習指導の基礎的、基本的事項についての理解に基づきながら、模擬授業や授業研究を行うことができる。（Dの15「授業展開力」の観点）

目標の見直しを図った関係で、当然、評価基準に関してもこれらの観点から見直し、再度作成しなおした。（資料B）

② 授業内容の構成について

昨年度の実践を振り返ると、授業内容の構成に若干アンバランスが見られ、後半部分に無理が生じていた。そこで、次のような面から、内容構成を再度見直すことにした。

○ 第1ステージ（講義・演習部分）が授業のおよそ半分を占め、後半の実践的な学びが窮屈であった。そこで、前半の部分を可能な限り短くし、その分を後半の指導案作成や模擬授業の実施に振り分ける。

○ 専門的な知識に関する内容を指導案作成の前（後半部分）に位置づけていたので、これを前半部分に位置づける。

○ 講義・演習→授業の参観→指導案の作成・授業実施→その省察という構成を考えると、意義は感じながらも2回の授業参観には無理がある。そこで、本年度は、1回の授業参観にする。その分、講義・演習の中で可能な限り授業のDVD視聴等を取り入れ、補う。

以上のようなことを考慮して作成した、授業計

画は別紙（資料A）の通りである。

3 本年度の実践

開設時期：平成21年度前期

担当教員：4名（派遣教員）

8名（協力教員）

受講学生：2年生44名，3年生1名

計 45名

(1) 第1ステージの実際

【学習指導に関する基礎的，基本的事項の理解】

第1ステージにおける本年度の主な改善点は，「学習指導全般に関する講義・演習の内容を精選したこと」，「それに代わり，教科教育の視点から専門的な内容の講義を各学科の先生方をお願いし，授業計画の早い時期に位置づけたこと」である。

併せて，毎回配付する基本的な資料や演習課題を一まとめにしたワークシートを作成し，配布した。

第1回 「オリエンテーション」

○まずは，本科目の開設理由，実践的科目群の中での位置づけ，本科目の特色及び目標について話した後，昨年度の授業の様子を写真でみせながら，科目全体の授業内容を理解させた。その上で，本科目における自己目標を設定させ，模擬授業の実施希望校種や教科等の調査を行った。併せて，学習指導に関する現時点での意識調査（第1回）を実施し，学びの内容を明確化した。このことについては，第15回で再度調査し，意識の変容を探ることにしている。（詳しくはP270参照）



写真1 オリエンテーションの授業風景

第2回 「学習指導案と授業」

○はじめに，学習指導の法的な根拠について触れた後，昨年度受講生の作成した指導案をもとに，その模擬授業をDVDで視聴させた。このことで，本科目の最終目標を明確に把握することができたと考える。その後，学習指導案の作成に必要な要素（学習目標，内容，過程，活動，形態等）や作成の手順等について学んだ。

第3回 「授業の進め方，指導法の工夫等」

○ここでは，まず，1時間の授業を中心にして授業の方法や技術を規定するもの，授業の構想，指導方法や指導形態，学習状況の評価，学びの場としての教室空間づくり等について資料に基づき講義を行った。その後，小学校第5学年国語科の「注文の多い料理店」の授業DVDを視聴させながら，授業中の教師の働きかけに焦点化して，観察・討議を行い，考察させていった。

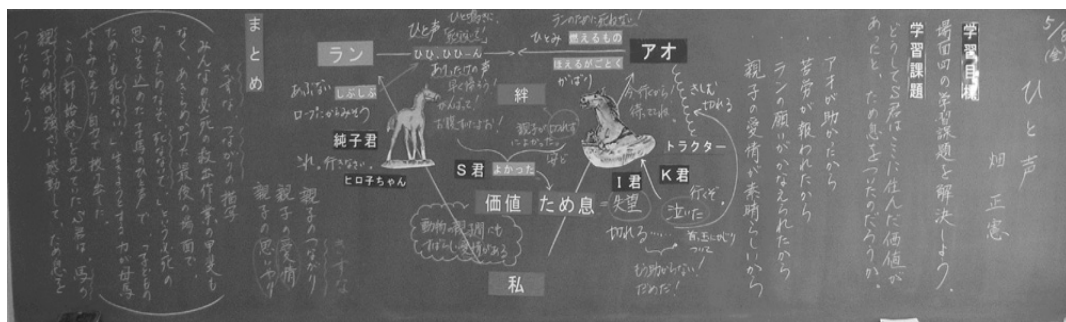


写真2 「ひと声」 畑正憲作（光村図書）の板書例

第4回

「きめ細やかな指導、発問・板書の工夫」

○はじめ、きめ細やかな指導を実現する際に重要である教師の認識やきめ細やかな指導を支える要素等について説明を行った。また、発問や板書についても具体的な説明を行った。その後、これらの話を一層具体化するという意味から、中学校国語科教材「ひと声」についての模擬授業の様子が実演され、背面黒板を活用した具体的な板書を提示した。(写真2)

第5回

「学習評価、授業観察と授業設計」

○ここでは、まず、学生が実施予定の模擬授業の教科の学習評価に関する資料に基づきながら講義を行った。その後、中学校2年理科「物質どうしの化学変化」に関する授業DVDを視聴させながら、導入から学習課題設定、実験の企画までの約20分程度を、学習活動を学習指導案として掘り起こす演習を行わせた。活動のまとめりとしてどのように捉えるか、それぞれどのような意味・ねらいの活動なのか、指導案としてどのような文言で表現すればよいかということを視点を、指導案と授業とがどのように結びついているのかを具体的に考えさせた。



写真3 DVDを視聴して

第6回 「教材研究の進め方」

○第5回までは、学習指導一般に関する講義・演習であったため、教科の専門的な知識を学ぶ場はなかった。そこで、第1ステージの最後であるこの回では、これまで得られていない教科の専門的な知識を獲得させ、今後の授業参観や学習指導案の作成に生かしていこうとすることを目的として

教科別の講義・演習を取り入れることにした。昨年度の改善点の一つである。

学生は自分が授業を実施する教科毎に分かれて、各学科担当の先生方(表2)からその教科に関する指導を受けた。

教科	人数	担当学科の教員
国語科	7名	上谷教授(大久保准教授)
社会科	8名	溝口准教授(田宮准教授)
算数・数学科	9名	植村教授(下野)
理科	6名	土田教授(隈元教授)
音楽科	1名	日吉准教授
図画工作科	6名	小江教授
家庭科	4名	黒光准教授
英語科	3名	坂本教授

表2 各教科担当教員

各教科で実施した指導は、主に以下のような内容である。

- ◇教科の目標や各学年の目標等の解説
- ◇領域内容の構成及び主な内容の解説
- ◇模擬授業単元(公開参観授業と同一)の分析
 - 「単元の目標」「単元の指導計画」
 - 「教材の分析」「本時構成の考え方」等

(2) 第2ステージの実際

第2ステージにおける本年度の改善点は、模擬授業前の授業参観を1回にしたことである。模擬授業用の学習指導案作成やその準備及びその省察の時間を十分確保するためである。

また、1回の授業参観をより有意義にするために、授業参観で学んだこと等を小グループで話し合う活動等を取り入れた。

第7回 「参観授業の分析」

○次回第8回の附属学校での授業参観を控え、ここでは、学習指導案に関して学ぶべきこと、授業で何を見て学ぶか等を実際の授業に即して考えさせることにした。

学生が学習指導案や授業参観から学ぼうとして設定した目標(3名の例)は次頁のようなものである。

【事前】① 公開参観授業に対する目的（何を見るか、何を期待するか）

- I 板書、教材、教師の発問等、授業を進めるうえでの工夫を読み取る。
- II 図工の授業で、子どもたちが作業中の教師の動き、働きかけを観察する。
- I 価格の違う魚から、どのように「運ぶ工夫」を考えているか興味をひきつけるかの発問や板書を見る。
- II 室町文化と、現在受け継がれる文化をどのようにつなげているかを見学する。子ども達が話し合いをしている時の教師の動きを見る。
- I 本時の授業のまとめへとつなげるまでに、どのような発問を行っているかを見学する。子ども達が話し合いをしている時の教師の動きを見る。
- II 資料をどのような場面で、どのように活用しているか、また板書における工夫を観察する。

学生の目標

第8回 「授業観察及び授業研究」

附属小・中学校の公開研究の授業を参観させていただいた。併せて、小学校においては、教科の分科会にも参加させていただき、研究発表を聞き、授業研究に参加させていただいた。

第9回 「グループ協議」

授業観察や授業研究に参加して学んだことを以下のグループに分かれて討議を行った。

グループ名	教室
国語科・図画工作科 (13名)	101号
算数科(数学)・家庭科 (13名)	203号
社会科・音楽科 (10名)	302号
理科・英語科 (9名)	101号



写真4 グループ討議の様子

第10回 「学習指導案の作成①」

第11回 「学習指導案の作成②」

○教科担当教員指導のもと、2回にわたって、学習指導案の作成を行った。以下は、図画工作科（技術専修の学生の作成による）の一例である。

第4学年 図工科学習指導案			
平成21年 7月 10日 2限			
○組 男子○名 女子○名 計○名			
指導者 ○ ○ ○ ○			
1 題材	思いをカードにのせて		
2 指導計画（全7時間）			
(1)	参考作品の鑑賞から見るポイントを見つけ、見るポイントを生かした製作ができるような単元のめあてを設定する。（1時間）（本時1／7）		
(2)	見るポイントに基づき形や色、飛び出すしきや工夫したカードを製作する。より表現へのこだわりを広げるために製作の途中で友達と互いにアドバイスをし合う。（5時間）		
(3)	友達と見るポイントにそってカードを紹介し合い、互いのこだわりや活動を振り返る。（1時間）		
3 本時（1／7）			
(1) 目標	<ul style="list-style-type: none"> 参考作品から工夫されている点を見つけ出し、作品を見るポイントに気づくことができる。 誰にどんな思いを伝えるのか、どんな工夫をするのかアイデアスケッチをすることができる。 		
(2) 実 際			
過 程	主 な 学 習 活 動	時 間	教師の具体的な働きかけ
動機付け	1 参考作品を見比べて気づいたことを発表する。	(分)	○ 意欲を持って製作できるように、色、形、飛び出すしきや工夫された参考作品を提示する。加えて工夫されていない作品を提示し、2つを比較することで、工夫された作品の方がより思いが伝わることに気付かせる。
発 想	2 学習の進め方について話し合う。 イメージをもとに、形や色、飛び出し方を工夫して、自分の思いが伝わるカードをつくろう。	10	○ 参考作品から工夫されている点を発表させ、見るポイントとしてまとめる。 ○ 伝えたい思いが明確になるように、誰にどんな思いを伝えたいのか言葉に表させる。
構 想	3 イメージを記録する。 (1) 誰にどんな思いを伝えるかを考え、ワークシートにまとめる。 (2) どのような色、形、しきにすればより思いが伝わるかを考え、イメージをスケッチする。	15	○ イメージがなかなかない子どもには、「ありがたうやめどうって伝えたい人はいかなかな」など具体的な尋ねる。 ○ 板書してある見るポイントを意識させ、カードにどのような具体的工夫をすればよい考えさせる。
製 作	4 飛び出すしきを試しに作る。 いろいろつくってみたいけど、ケーキが前に飛び出して目立つこのしきを使ってみようかな。	17	○ 様々な飛び出し方を資料で紹介する。 ○ 多くの飛び出すしきを試しに作り実際の動きを確認させ、自分のカードのイメージに近い飛び出し方を見つけさせる。
鑑 賞	5 試しに作ったしきを紹介し合う。	3	○ アイデアを共有できるように、試しに作ったしきや、そのしきをどのようにカードに生かすかを発表させる。
評 価			

(3) 第3ステージの実際

第12回 「授業の具体的な準備」

ここでは、授業で使用する教材づくりや発問及び板書の計画を立て、実際の模擬授業に臨む準備を進めた。

第13回 「模擬授業①の実施及び授業研究」

第14回 「模擬授業②の実施及び授業研究」

模擬授業については校種により、また、教科により学生数が異なるため、様々な方法で行った。人数の少ない教科（音楽科と家庭科）は1つのグループにして合同で実施し、国語科、社会科、算数科などは多人数のため2回に分けて半数ずつ実施した。



写真5 社会科の模擬授業



写真6 算数科の模擬授業



写真7 音楽科の模擬授業



写真8 英語科の模擬授業

第15回 「本科目の成果及び今後の課題」

最終講義では、第1回に実施した「学習指導に関する意識調査（学生）」を再度実施しその変容を探った。（表4）その後、これまで学んできた学習指導に関する基礎的な知識についてワークシートにまとめさせ、今後の自分の課題に関して記述させた。

4 学生への調査及び調査結果

全ての講義の終了とともに、いくつかの調査を行った。その中から3つの調査について報告する。

調査1

調査日時：平成21年7月24日

調査内容：実践的教職科目を受講して「役立ったと思う内容」を3項目あげなさい。

調査方法：記述式

調査対象人数：「教職実践研究Ⅰ」受講者 41名

調査1の結果

内 容	回答数
①自分で指導案を作成したこと	28
②模擬授業を行ったこと	27
③附属学校での授業参観	23
④自己改善点が見つかったこと	7
⑤学習指導案作成の流れをつかんだこと	6
⑥発問案や板書計画の作成	4
⑦他の学生との意見交換や他の学生による評価	3
⑧教員や他の学生の模擬授業参観	3
⑨授業DVDを活用した諸活動	3
⑩グループでの討議活動	3
⑪その他	16

【考察】

昨年度の結果と比べると、上位の3つ項目に関しては同じであった。やはり、附属学校のプロの教師の授業を見ることは学生にとってインパクトの強いものであるとともに、また、自分で初めて指導案を書き、模擬の授業ではあるが授業を行うことで得るものは大きいといえる。

それ以外の項目では、幾分変化が見られた。具体的には、まず、自分なりの改善点が見つかったことがかなり多くなっている。また、他の学生の模擬授業が見られたことや他者との協議、他者からの評価が有意義だった等の意見が昨年度と比較

して増加している。さらに、学習指導案作成の流れがつかめたこと等、方法的な面にも目が向いている学生も見られた。本年度、目標を見直し、自己改善力や連携協働力の育成に力を注いだことや教育方法等の理解に力点を置いたためではないかと考える。

調査2

調査日時：平成21年7月24日

調査内容：学習指導案作成の課題及び授業に関する課題をあげなさい。

調査方法：記述式

調査対象人数：「教職実践研究Ⅰ」受講者 41名
調査2の結果

【学習指導案作成に関する主な課題】

- 学習指導要領の内容をもっと深く読み込む。
- 学習活動を目標とリンクさせ、一つ一つの学習活動の意味や目的を明確にする。
- 指導内容等を簡潔に分かりやすく記述する。
- もっと具体的に書けるようになる。
- 指導言や言葉かけまで考えて書く。
- 作成のスピードを上げること。
- 児童の実態や反応を考え作成する。
- 子どもが分かりやすい指導方法の考案する。
- 評価が十分でなかった。
- 学習活動をより細かく設定する。
- 時間配分をよく考えて作成する。 等

【授業に関する主な課題】

- 子どもの興味関心を高める授業づくり
- 目当てに対応したまとめの在り方
- 児童や生徒の理解把握
- 臨機応変な対応（予想外の反応への対処）
- より効果的な発問
- 声の大きさ、明るい表情
- 板書のタイミングや丁寧な板書
（文字の書き方、板書の練習）
- 自分なりの授業スタイル
- KRを心がけること
- 授業間のつながりの意識
- もっと念入りな授業準備 等

【考察】

「模擬授業は大変だったが、自分で指導案作成から行うことで、授業をするまでの流れが分かっ

たし、課題も見つかってよかった。」これは、受講した学生の感想である。このように、受講学生たちは、多くの苦勞を感じながらも授業のデザインとその展開に真剣に取り組んだ。

その中で、上述したように、一人5、6項目もの課題を得ることができた。自己改善を図りながら、学び続け、成長し続ける力の育成を大事にした本科目の学びがいくらかでも成果として現れた姿であるにとらえたい。今後の参加観察実習や教育実習の事前指導、本実習にまで生かしていける課題であり、学生個々がこれからの学部での学びの中で積極的に取り組んでいってほしいと期待する。

最後に、学習指導に関する15の項目に関する学生自身の自己評価による変容を調査した。その結果が表3である。これは、授業開始時（第1回）と授業終了時（第15回）の自己評価の変化を4段階評定で平均してどの程度伸びたかを見たものである。（（ ）内は昨年度に調査した同一内容の伸び率を掲載している。）

表3の結果を見ると分かるように、まず、本科目で最も重視した学習指導の基礎的・基本的内容に当たる項目（①のイや②のウ、エ、力など）は1ポイント以上という高い伸びを示していることがよくうかがえる。

また、思った以上に②のオやク、③のコやシも高い数値（0.8、0.9等）を示している。

模擬授業ならではだが、実際に子どもを目の前にしないと十分でない項目（②のキやケ、③のサとセなど）については、当然のことながら低い数値を示している。

これらのことから本科目でねらった内容に関しては、学生はよく達成したと感じているといえるし、実際に子どもを相手にする授業に対しても十分な課題意識をもっている様子をうかがうことができる。

今後、参加観察実習、第1免許教育実習、第2免許教育実習の中で一層実践的な指導力を高め、その力を教職実践演習等で一層磨きをかけていくことができるようにと期待している。

① 各教科等のカリキュラムに関する理解	上昇ポイント(昨年度)
ア 各教科の学習指導要領に記載されている教科目標や各学年、各領域等の内容を把握していますか。	0.54(なし)
イ 学習指導要領や年間指導計画などで指導する単元の目標や内容などを確認することができますか。	1.10(1.35)
② 教材分析力及び授業デザイン力に関する事項	上昇ポイント(昨年度)
ウ 教科書や資料などを分析して教育的価値を明らかにし、指導すべき基礎的・基本的な内容を明確におさえることができますか。	1.07(1.09)
エ 目標と結び付けて、単元の各主題や指導過程の設定、時間配分等を行うことができますか。	1.15(なし)
オ 子どもの実態や意識について把握し、単元の位置などから本時の目標を正しく設定することができますか。	0.80(1.13)
カ 導入・展開・終末の基本的な指導過程にそって、一単位時間の学習指導案を教科書を用いて作成することができますか。	1.34(1.65)
キ 定着の状況に応じて、学習形態を工夫したり、個に応じた指導などきめ細かな指導を工夫したりすることができますか。	0.66(0.57)
ク 基礎的・基本的な内容について反復指導したり、具体物の提示や実験などを工夫したりして、定着を図る工夫をすることができますか。	0.95(0.65)
ケ 子どもの障害の程度や特性などに配慮して教材・教具を工夫したり、指導方法を工夫したりすることができますか。	0.46(0.39)
③ 授業展開力及び授業評価力に関する事項	上昇ポイント(昨年度)
コ 学習のねらいにそって、興味・関心を高めたり思考を深めたりするような発問を工夫することができますか。	0.85(0.75)
サ 学習の流れにそって、子どもの反応を受け止めながら内容を構造化したり、丁寧に板書したりすることができますか。	0.66(0.74)
シ 話し方や表情を工夫したり、子どもの反応に対してうなずきやほほえみ、相槌をうったりすることができますか。	0.80(0.35)
ス 視聴覚機器や教育機器を積極的に活用し、児童・生徒の興味・関心を高め、指導の効果を高めることができますか。	0.76(0.48)
セ 目標を達成した具体的な子どもの姿を「評価規準」として設定し、計画的に評価することができますか。	0.39(0.67)
ソ 学習中や学習前後の子どもたちの変容を評価し、補充指導や授業の改善に役立てることができますか。	0.61(0.67)

表3 学生の意識調査とその変容

5 おわりに

以下は、学生の感想の一部である。

- 教育実習に行く前に、学習指導案の書き方を学んだことは自分のためにとても役立った。
- 実際に授業をしてみて、よくできたことや改善した方がよいことを見つけれられた。
- 担当の先生からこれから私たちに必要な話をたくさんしていただいた。密度が濃かった。
- 教師の心得や心構え、生徒に対する態度などを知ることができた。
- 実際に授業をして、自分が「よい授業」からどれだけ離れているかが分かった。
- 授業を行うためのスタートラインにつけた。

これらの感想を読むと、学生が多くのことを学んでくれたと感じられる。今後、ここで得られた成果をさらに教職実践研究Ⅱや他の実践的科目の指導にどのように生かしていくか、今後も継続して取り組み、改善していく必要があると考えている。

引用・参考文献

- 中央教育審議会答申 「今後の教員養成・免許制度の在り方について」 2006.7
鹿児島大学教育学部 特別教育研究経費事業平成19年度中間報告書 2008.3
鹿児島大学教育学部 特別教育研究経費事業平成20年度中間報告書 2009.3

資料 A

【 授 業 計 画 】

回	内容・方法	形態・担当等
第 1 ス テ ー ジ (学習指導に関する基礎的・基本的事項を身につける。)		
1 4/10	昨年度の各回の授業風景写真を見ながら授業像をイメージする。 ○「本科目で解決していく課題及び自己評価について」【講義・ワーク】	オリエンテーション
2 4/17	○「学習指導案と授業」ー目的と作成の手順ー【講義・演習】 ・昨年度の模擬授業を視聴する。(指導案の見方と結びつけて) ・学習指導案について(定義・目的 作成の手順 授業の要素)	講義・演習
3 4/24	○「授業の進め方、指導法の工夫等」 ・授業の要件、各過程での進め方、学習形態、指導法の工夫と留意点など	講義・演習
4 5/8	○「きめ細やかな指導、発問や板書の在り方等」 ・問題解決的な授業の模擬体験指導 ・発問(KR、机間指導等)や板書、ノート指導等	講義・演習
5 5/15	○「学習評価、授業観察と授業設計」 ・学習評価について ・授業観察の視点と授業設計へのつなげ方	講義・演習
6 5/22	○「教材研究の進め方」 ・公開授業単元の教材に関する研究の仕方 ・教材研究の演習等	講義・演習 (各教科担当)
第 2 ス テ ー ジ (授業の観察と指導案作成)		
7 5/29	○「参観授業の分析」(演習) ・公開研究授業の発問案、板書案作成 ・研究公開の参加について	演習
8 6/5	○「授業観察①と授業研究Ⅰ」 ・公開研究授業の授業観察 ・教科分科会での授業研究	現地調査 於：附属学校
9 6/12	○「公開研究授業を通して学んだこと」【ワークシート記入】 ・公開研究会に参加しての話し合い ・指導計画等の配付及び授業箇所の確認	演習・討議
10 6/19	○「指導目標にそった学習指導案の作成①」 ・模範授業の指導目標にそって学習指導略案作成 ・発問・板書計画を作成	演習 (各教科担当)
11 6/26	○「指導目標にそった学習指導案の作成②」 ・模範授業の指導目標にそって学習指導略案作成 ・発問・板書計画を作成	演習 (各教科担当)
第 3 ス テ ー ジ (模 擬 授 業 と 授 業 研 究、総 括)		
12 7/3	○「授業の具体的な準備」	演習 (各教科担当)
13 7/10	○ 模擬授業の実施及び授業研究等	模擬授業/授業 研究(各教科)
14 7/17	○ 授業研究及び授業研究、授業に対する指導(評価)	模擬授業/授業 研究(各教科)
15 7/24	○「本科目における成果及び今後の課題について」 ・学習指導に関する振り返り及び自己評価等	講義・演習

資料B

「教職実践研究Ⅰ」評価基準表

観点	規 準	基 準			評 価 の 方 法 等
		A (優れている)	B (概ねよい)	C (不十分)	
A-3	【教育方法の理解】 ○授業の方法や技術 形態等に関する基礎 的・基本的事項を理 解している。	a1授業の方法や技術、形 態等について、明確に説 明できる。 a2きめ細やかな指導につ いて具体的に説明できる。	a1授業の方法や技術、形 態等について、概略説明 できる。 a2 b きめ細やかな指導に ついて概略説明できる。	a1授業の方法や技術、形 態等についての説明がで きない。 a2 きめ細やかな指導につ いての説明ができない。	☆ワークシート ☆まとめのプリ ント
B-8	【自己改善力】 ○授業参観や指導案 作成、模擬授業を通 して、自らの課題を もち、改善につなげ ようとしている。	b1どの段階においても絶 えず自らの課題を明確に もち、見通しをもち、改 善につなげようとしてい る。	b1次第に、自らの課題を 意識し始め、見通しをも ち、改善に努めようとし ている。	b1自らの課題を明確に意 識できず、見通しをもつ た改善への取組が見られ ない。	☆ワークシート ・班毎の意見交換後 ・指導案作成時 ・模擬授業後等 ☆観察
D-14	【授業デザイン】 ○教材研究に基づい て、1時間の授業を 的確にデザインする ことができる。	d1教科目標を踏まえ、本時目 標や評価の観点に適切に設定 することができる。 d2目標達成に向け、学習のめ あて、めあての追究、まとめ と補充等までの筋道だった学 習指導案を作成することがで きる。	d1教科目標を踏まえた本時目 標や評価の観点の設定が概ね できる。 d2目標達成に向け、学習のめ あて、めあての追究、まとめ と補充等などを取り入れた学 習指導案を作成することがで きる。	d1教科目標を踏まえた本時目 標や評価の観点の設定がで きない。 d2目標達成に向け、学習のめ あて、めあての追究、まとめ と補充等までの一貫した学習 指導案作成ができない。	☆学習指導案の 作成過程の取組 ☆完成した学習 指導案
D-15	【授業展開】 ○準備を整え、適切 に授業を行い、次へ の改善策を見つける ことができる。	d3教材や教具の準備を整え、 子供の様子を想定し、発問や 板書も適切で、明瞭な声や表 情にも気をつけて授業を行う ことができる。 d4自分の授業を振り返り、適 切な改善策を見つけることが できる。	d3教材や教具の準備を整え、 子供の様子を想定し、発問 や板書も行いながら授業を進 めることができる。 d4自分の授業を振り返り、 改善策をいくつか見つけるこ とができる。	d3模擬授業を行う際、教材や 教具の準備、子供の様子の想 定、発問や板書などができて いない。 d4自分の授業を振り返り、課 題の改善策を見つけられな い。	☆模擬授業観察 ・教材等の準備 ・発問や板書 ・声の大きさや表 情等
E-17	【各教科等のカリキ ュラに関する理解】 ○1時間の授業は、学 習指導要領を基準とし 各学校で編成された教 育課程に基づいて実施 されていることや各教 科の目標や内容などを 理解している。	e1 1時間の授業は、学習指導 要領を基準とし各学校で編成 された教育課程に基づいて実 施されていることや各教科の 目標や内容などを具体的に説 明できる。	e1 1時間の授業は、学習指 導要領を基準とし各学校で編 成された教育課程に基づいて 実施されていることや各教科 の目標や内容などを概略説明 できる。	e1 1時間の授業は、学習指 導要領を基準とし各学校で編 成された教育課程に基づいて 実施されていることや各教科 の目標や内容などの説明がで きない。	☆まとめのプリ ントの記述